

地球を守るエコな暮らし UNEPサステナビリティアクション



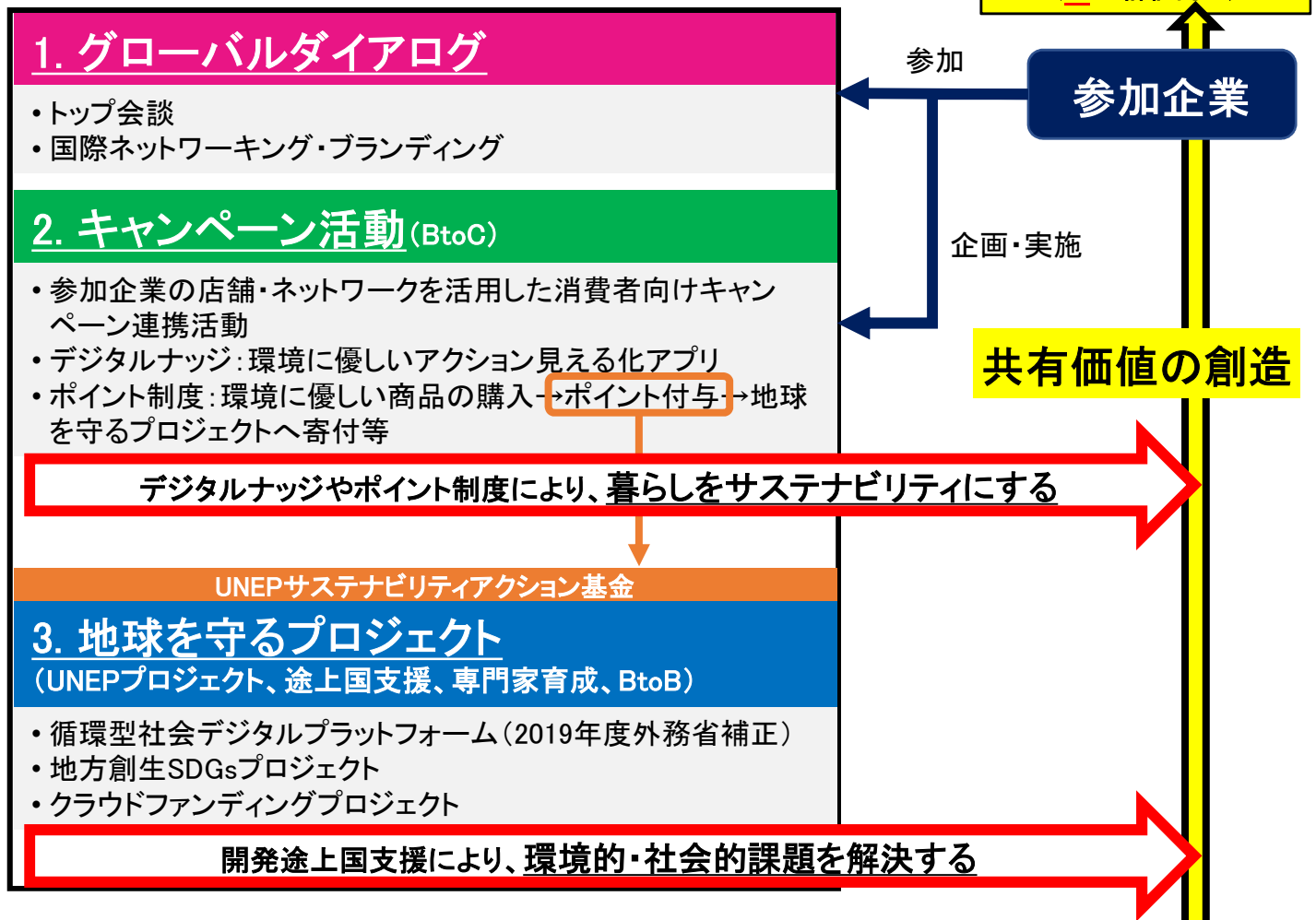
地球を守るエコな暮らし
サステナビリティ
アクション
国連環境計画

目的 地球を守るエコな暮らしをテーマに、普段の暮らしからサステナビリティを考え、環境にやさしい社会をつくり、持続可能な地球にする。

概要 地球規模課題の解決に向けたストーリーにおける主役は、私たちが普段使用しているモノやコトを届けている民間企業である。民間企業が創りだしているモノやコトがよりサステナビリティなり、それらが普段の暮らしに溶け込むことによって地球規模課題を解決することができる。

UNEPサステナビリティアクションは、地球規模課題、特に循環資源からサステナビリティの促進を目的とし、分野・業界・国境を越えた企業同士のつながりや、政府・民間企業・一般市民・その他機関の横断的なネットワークである。最も効率的な国際的ネットワークの場を構築し、トップ会談・消費者向けキャンペーン活動を一体化させ、つながりのチカラを最大化にすることで、サステナビリティの向上を目指す。

UNEPサステナビリティアクション 計画



2. 連携活動

- ・国連機関幹部、日本政府閣僚級、グローバル企業のCEO・幹部等が一堂に会するハイレベルダイアログの開催。世界を率いるトップリーダーが自ら考えているサステナビリティの世界観を明らかにし、UNEPや参加企業が持っている物語を組合わせ、サステナビリティに向けた大きなアクションとする。
- ・UNEPサステナビリティアクション – キックオフダイアログ
 - 日時：2020年3月5日（木）15:00～17:15
 - 場所：パークタワーホール（東京都新宿区西新宿3-7-1）
 - 主催：国連環境計画、後援：外務省、環境省、協賛：株式会社ファーストリテイリング、株式会社セブン&アイ・ホールディングス、協力：大阪市、地球環境センター

1. グローバルダイアログ

- ・トップ会談
- ・国際ネットワーキング・ブランディング

2. キャンペーン活動 (BtoC)

- ・消費者向けキャンペーン：参加企業の店舗・ネットワークを活用した連携活動
- ・デジタルナッジ：環境に優しいアクション見える化アプリ
- ・ポイント制度：環境に優しい商品の購入→ポイント付与→地球を守るプロジェクトへ寄付等

参加

参加企業

企画・実施

デジタルナッジやポイント制度により、暮らしをサステナビリティにする

- ・目的：参加企業の得意分野を一つの物語につなげ、サステナビリティなモノやコトを消費者が体験し、暮らしの中で意識改革を図る。

・活動内容：

- UNEPサステナビリティキャンペーン：特定の日（例：4月22日アースデー、6月5日環境デー、環境月間や毎月特定の日）にサステナビリティ活動を促すキャンペーン活動（例：100%マイバッグデー、着なくなった服を資源として返却促進、サステナビリティ体験コーナーの実施等）。参加企業の旗艦店で実施。今後は国内外での店舗数を増やす
- アプリ等を活用し、暮らしの中に「何がサステナビリティなのか（＝地球にやさしい暮らしなのか）」を組込む。

結果：一般市民におけるサステナビリティの意識改革を実施し、普段の暮らしの中でサステナビリティのモノやコトを使用することが日常になり、地球規模課題へ貢献することが可能。

UNEPサステナビリティアクション ポイント制度

- ・デジタルナッジ（アプリ）と連動
- ・消費者のサステナビリティアクションにポイントを付与
 - エコバック持参
 - リサイクル素材の製品購入
 - グリーンラベル商品購入
 - 省エネ商品購入
 - 使用済み商品のリサイクル、など
- ・参加企業が関連する消費者のサステナビリティアクションポイントに応じて、参加企業がサステナビリティアクション基金へ寄付
- ・UNEPとガバナンスチーム運営の下、地球環境センター（UNEPとMOUあり）が基金を管理。

2020-2024：一体性の拡大、システム構築、消費者の認知度・活動内容の完成度を高める。
2025：大阪・関西万博に導入。日本全国でシームレスシステムとして導入。
2026-：海外展開

3. 地球を守るプロジェクト

ポイント付与

UNEPサステナビリティアクション基金

3. 地球を守るプロジェクト

(UNEPプロジェクト、途上国支援、専門家育成、BtoB)

- ・循環型社会デジタルプラットフォーム
- ・地方創生SDGsプロジェクト
- ・クラウドファンディングプロジェクト

開発途上国支援により、環境的・社会的課題を解決する

- ・循環型社会デジタルプラットフォーム
 - 世界廃棄物概況オンラインAIシステム
 - IT・AIにより自動情報収集・解析データベース、自動翻訳による多言語化
 - アルゴリズム設定によりCO₂排出、廃棄物排出、リサイクル率等各種データ分析
 - 経済社会的ニーズに応じた廃棄物管理技術情報の共有化・マッチング
 - IETCプロジェクト(地球環境ファシリティ、気候変動対策支援イニシアティブ、IGES-UNEP環境技術連携センター)に基づく、途上国廃棄物処理ニーズ(一般廃棄、食品廃棄物、衣料廃棄物、電気電子機器廃棄物(冷媒)等)と、先進国廃棄物処理シーズ(途上国が必要としている中小規模廃棄物処理技術保有)のマッチング、技術移転、実施
- ▶ UNEPサステナビリティアクション + プラットフォーム + 展示会(エコプロ2020)を組合わせたマッチングイベント・セミナー開催
- 国連環境総会・多国間環境条約決議に基づく、途上国における廃棄物管理支援プロジェクト
- ・地方創生SDGsプロジェクト
 - 途上国の地方都市における循環型社会形成プロジェクト
 - UNEPサステナビリティアクション“キャンペーン活動”の海外展開、特に途上国の地方創生を支援する
- ・クラウドファンディングプロジェクト
 - 途上国における草の根プロジェクト支援(環境教育、SDGs教育等)
 - 次世代循環型社会システム構築研究

2025年 大阪・関西万博 地球環境をテーマにした出展、会場運営

「いのちの星、美しい地球」を子供達につなぐ！ (実感、感動、行動、そして、共有価値の創造)

国連環境計画	国際環境技術センター(UNEP IETC)
公益財団法人	地球環境センター(GEC)
一般社団法人	サステナブル経営推進機構 (SuMPO)
一般財団法人	持続性推進機構 (IPSuS)

「いのち」を生み育んできた地球は、今、**温暖化の危機**

美しい地球を**子供達につなぐ**のは、私たちの責任

今こそ、**一人一人の確実な行動**が必要

AI, IOTを駆使し、**楽しく手軽に実行**できるシステムを構築

SDGS + beyondに向けた**国際イニシアティブ**として**世界へ発信**

1. テーマ

- ▶ 「いのち」の源、温暖化など地球の危機を**実感**し、**行動**に繋げる
- ▶ **SDG s + beyond**に向け**国際イニシアティブ**として世界に発信

【A】サステナブル万博の会場運営

- ▶ 入場者や出展者のCO2削減等様々な**サステナブルな行動や取り組み**を**見える化、ポイント化**して還元
- ▶ 会場内外での**魅力的なメニュー**のほか、**ビヨンド・ゼロ**や**世界の人々とつながるメニュー**を提供(**共有価値の創造**)
- ▶ **AI, IOT**等を活用し**手軽に楽しく**体験
- ▶ **Well-being**や**Future design**、**CSV**、**時間通貨**、**ナッジ**等の視点を活用し**意識化**や**自発的**な取組を促す
- ▶ **統合的アプローチによるモデル化** (CO2削減 ⇄ 資源循環、環境 ⇄ **SDG s** へ) で広範なムーブメントへ
- ▶ **万博全体としてのサステナビリティのマネジメントと評価 (LCA)**
- ▶ **国際イニシアティブ**として世界に発信

【B】パビリオンでの発信 (いのちと地球、そして行動の時)

- ▶ 【A】とのシナジー
- ▶ いのちと地球環境について**ミラクルワールド**へ誘い、奇跡的存在、いのちある自己を実感
- ▶ 温暖化の地球、**将来のパラレルワールド**をハラハラドキドキ体感
- ▶ 人類の**知恵と行動**を発信、行動による幸福と感動
- ▶ **beyond Sdgs**に向けて、**世界の若者、市民と連携**

4. 実装・実証のシナリオ

【本多委員提出資料】

年度	2020	2021	2022	2023	2024	2025
(1) プロジェクト推進委員会 〃 戦略タスクフォース	★					
(2) 登録イノベーターの募集、連携						
(3) AI等を活用したフットプリント 技術の開発、ポイントシステム等構築	仕様検討	開発、構築		調整、改良		
(4) 対象行動の決定と ポイント化のルール策定						
(5) マーケット技術の開発、システム構築	仕様検討	開発、構築		調整、改良		
(6) マーケットルールの策定						
(7) 会場内の施設運営者(パビリオン、 商業施設、移動施設)との連携						
(8) 実証						
(9) 具体の会場運営へのビルトイン						
(10) 万博における実証 世界へ発信(国連環境総会等) レガシーとしての未来への継続展開 (TEAM EXPO2025, FD世界同時市民会議等)						

★ プロジェクト推進委員会、タスクフォース メンバー 案

UNEP IETC、GEC、学識経験者、サステナブル経営推進機構、持続性推進機構、UNEPIETC連携企業、AI関係、イノベーター関連団体
国、自治体、博覧会協会

7. 提案団体、連携協力企業・団体 (案)

≪提案団体≫

- **国連環境計画 国際環境技術センター UNEP IETC**
自然と人間の共生をテーマに1990年に開催された「花と緑の博覧会」のレガシーとして活躍する大阪で唯一の国連機関であり、国内や海外諸国への広範なネットワークと高い知見を有している。UNEPサステナビリティアクション計画を民間企業と連携して進めておりそうした企業と強固なネットワークを有する。
- **(公財)地球環境センター GEC**
UNEP IETCの支援団体であると同時に、環境省からの地球温暖化対策JCM事業の補助金執行団体でありJCM実施事業者との幅広いネットワークを有している。またCDMについての研究成果などカーボנקレジットについての長年の議論と最新の国際情勢に対する高い知見を有している。近畿経産局と連携しTeam E-Kansai事務局を務めるなど関係企業とのネットワークを有する。
- **(一社)サステナブル経営推進機構 SuMPO**
長年にわたり我が国におけるカーボンフットプリントについての事業を展開してきた(一社)産業環境管理協会から昨年10月にLCA(ライフサイクルアセスメント)事業継承された最高の知見を有する団体であり、本実証の認証システムを構築するうえで重要。アジア最大級の環境展の主催者であり、登録イノベーターの候補となる出展者への強力なネットワークと集客力、企画力を有している。
- **(一財)持続性推進機構 IPSuS**
多様なセクターとの連携・協働により、持続可能な社会の実現を推進するため設立された団体で、**エコアクション21認証・登録制度**を長年にわたり推進しその定着を図るなど我が国の持続可能な社会の構築に向けた実行組織であり、企業、行政、NGO等との幅広いネットワークを有する。

≪連携、協力企業、団体等(予定)≫

- **UNEPサステナビリティアクションやステークホルダーズミーティング 参画企業**
- **関西・アジア 環境・省エネビジネス交流推進フォーラム会員企業 (Team E-Kansai)**
- **環境関連展示会主催者**
- **エネルギー関連企業**
- **AI関連企業、映像関連企業 など**
- **NGO、NPO**
- **(公財)大阪観光局**
- **大学・研究機関**
フューチャー・デザインの考え方を採り入れたWS等の実践については 大阪大学などの研究者から学術的見地からサポートを得る予定
- **国**
- **自治体**